



「いつ来ても、スタッフが名前でも呼んでくれる。その安心感は大きなものでした」

介護付有料老人ホーム「ラビドール御宿」を選んだ理由——大塚博之さん、悦子さんご夫妻の場合

千葉県南房総地域に位置する御宿は温暖な気候で知られています。この地にあるのが1990年から続く介護付有料老人ホーム「ラビドール御宿」(一般財団法人

人千代田健康開発事業団)。ここでの暮らしを紹介する連載の3回目に登場いただくのは、大塚博之さん(76歳)と悦子さん(71歳)ご夫妻です。お二人は14年前に初めて「ラビドール御宿」を訪れてから幾度も通い、6年の歳月をかけて移住の決断に至ったそうです。大塚さんご夫妻がどのような経緯で「ラビドール御宿」での暮らしを選んだか、そしてどんなところがポイントとなったかを伺いました。

親の介護を通して知った「老い」の向き合い方

多くの人のとって「老い」と向き合うことは簡単なことではありません。ですが悦子さんは50歳代に入って間もなく、老いについて考えるようになりました。

「母の介護を通して、自身も老いること」を感じ、そのなかで、自分の最期は自分で考えたいと思うようになったんです」

大塚さんご夫妻はふたり暮らしで、いづれ老々介護になるという心配もありました。一方の博之さんは「最期まで自宅で過ごしたい」と考えており、当初は前向きではなかったそうです。しかし博之さんは「順番を考えれば自分が先に亡く



結婚45年を迎える大塚博之さん、悦子さんご夫妻。撮影場所はお二人がダイニングルームとの行き来に使う中庭で、お気に入りの場所だそうです。



↑悦子さんの願いをかなえた海が見える自室のベランダで一枚。ベランダは広く、テーブルを出してお茶を楽しむこともあるそう。←博之さんの撮影による初日の出。



なる。そうならば妻が一人残されることになりません。ですから彼女の希望を最優先しようと考えました」と話します。

悦子さんの希望は海が見えるところ。そうして「ラビドール御宿」を見つけました。広々とした明るい雰囲気、惹かれてさっそく体験入居に申し込みましたが、そのとき悦子さんは57歳、博之さんは62歳でした。

当時、支配人として対応したのは、現在の千代田健康開発事業団の専務理事である二見建央さんでした。



「ラビドール御宿」の敷地配置図。海まで車で約5分の緑豊かな丘陵地にあり、約1万400坪という敷地を有する。その約7割は四季折々の景色が楽しめる庭園となっている。敷地内には24時間介護が可能なケアセンターに加え、ホーム同一法人直営の協力医療機関「ラビドールクリニック」(医師3名、看護師9名、薬剤師1名)が館内廊下でつながる。

シニアの住宅選び「若いうちから時間をかけて」

大塚博之・悦子夫妻の場合

- 悦子さんが50歳代後半のときから「海が見える」をキーワードにさまざまな住まいのリサーチを開始
- 10施設以上を見学し、気になったら体験宿泊
- 初めてラビドール御宿を訪れたのは10年以上前。入居決定まで6年を要した
- 安心して自立できることが夫婦が守りたい暮らし。スタッフの皆さんも決め手のひとつ
- 介護棟と付属の診療所が併設されていることも重視

「お二人ともお若く、時間がありません。私たちは物件を売っているのではなく、心地よく暮らしていただくための環境をご提供したい。ですから拙速に決める必要はないと、また『ラビドール御宿』を知っていたらよかったにも、四季に応じて何度でもおいでください、そして私たちが知ってくださいと申し上げました」

その提案に従い、大塚夫妻は体験入居を重ねました。その間も10以上の施設を見学。沖縄県にも足を延ばしましたが、他施設を体験するほど、気持ちはラビドール御宿に向いたそうです。他施設との違いでとくに顕著だったのは「スタッフとの距離感」と夫妻は口をそろえます。「ゲストの立場なのに、さまざまなお仕事の方々が『大塚さん、お帰りなさい』と声をかけてくれました。入居してからは直接面識のない介護棟のスタッフも名前を覚えてくれていて、それに驚くと同時に、なんともいえない安心感を得ることができました」と博之さん。悦子さんは「スタッフが穏やかで優しい。長く勤めている人も多く、まるで大きな家族の

ベースとなっていると話してくれました。2015年に悦子さんの希望をかなえる海の見える部屋に入居が決まり、御宿での暮らしが始まりました。

大塚さんご夫妻はここでの暮らしを心から楽しんでいると感じさせてくれます。二見さんは「少しでも若いうちから、準備を始めたことが成功のカギ」と話します。ラビドール御宿なら、ポジティブに「老い」と向き合うことができそうです。



キッチンと浴室を備え、4か所の緊急コール、生活リズムセンサーを設置した居室（写真は約51㎡のタイプ）。



共用施設には15mの温水プールを完備。プールにはジムも併設されており、入居者の健康維持に大いに役立っている。



悦子さんは庭が見えるライブラリーがお気に入り。「読みたい書籍もすぐに手配してくれるので、読書がいつも楽しみです」。



↑京都三名席に数えられる、「金地院八窓亭」(こんちいんはっそうせき)を再現した本格的な茶室を併設する。←庭園を見渡すダイニングでは、バランスの良い健康的な食事が提供される。



入居者の知見・知識を披露する「雑学の集い」は「ラビドール御宿」の人気コンテンツ。博之さんも大手飲料メーカーで薬品を開発していた前職の経験を生かして、発表を行っている。



↑お二人が足繁く通う近隣にある割烹(かっぱう)の店主や常連さんは旅行に行く仲。大塚さんご夫妻は日ごろから積極的に御宿の街の人々と関わりを持つことで友人も増え、「地域に暮らす」ことも実現している。→40年来の相棒であるキャンピングカー。写真は2代目で20年以上の付き合いとか。2023年の夏は1か月かけての北海道旅行を楽しんだ。



一員になったよう」と笑顔を見せてくれます。何度も訪ねるうちに、次第に博之さんの気持ちは変わり、いつしか『ラビドール御宿』なら、暮らしてもいい」と口にするようになりました。

医療支援体制と介護の連携で暮らしの安心を担保

そしてもうひとつの決め手となったのは医療支援体制が整い介護と連携し、さらに介護棟が併設されていること。健康と将来への安心こそが、お二人が元気に、そして自由に今の暮らしを満喫できる

LAVIE D'OR ラビドール御宿

●お問い合わせ

ラビドール御宿入居相談室

☎ 0120・122・602

[受付時間]9:00～18:00

[定休日]土曜・日曜・祝日

東京入居相談室

☎ 0120・605・107

[受付時間]9:00～17:00

[定休日]土曜・日曜・祝日

一般財団法人 千代田健康開発事業団 ラビドール御宿
千葉県夷隅郡御宿町御宿台132



<https://www.laviedor.or.jp/>

千葉県有料老人ホーム設置運営指導指針による類型及び表示事項

■類型 介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)

■表示事項○居住の権利形態 利用権方式○利用料金の支払い方式 全額前払い方式○入居時の要件 入居時自立○介護保険 千葉県指定介護保険特定施設(一般型特定施設)・千葉県指定介護予防特定施設○居室区分 全室個室○一般型特定施設である有料老人ホームの介護にかかわる職員体制21以上 ◇協力医療機関 ①一般財団法人千代田健康開発事業団付属診療所「ラビドールクリニック」(ホーム敷地内隣接)診療科目:内科、眼科 / 協力科目:内科【協力内容:通院・入院への協力、一般財団付属診療所への医師派遣(週1回眼科医)、看護指導】※医療保険制度で支給される費用以外は自己負担。○介護に係る職員体制:週38時間換算で常勤介護職員36.1人(うち要介護者等対応34.1人)・看護職員5.4人(うち要介護者等対応5.4人)、夜間(17時～翌9時)最少時は介護職員2名(平均3名)○設置者からの契約解除:入居者の行動が、他の入居者又は設置者の従業員の生命・身体・健康・財産(設置者の財産を含む)に危害を及ぼし、ないし、その危害の切迫したおそれがあり、かつ有料老人ホームにおける通常の介護方法及び接遇方法ではこれを防止することができない場合や、入居者又はその家族・連帯保証人・身元引受人・返還金受取人等による、設置者の従業員や他の入居者等に対するハラスメントにより、入居者との信頼関係が著しく害され事業の継続に重大な支障が及んだ場合等、設置者から契約を解除することがあります。